

福井の幕末明治 歴史秘話

<第22号>

せご 西郷どんと交流を深めた幕末明治の福井の先人達 ~番外編 ~島津斉彬・久光兄弟に対する松平春嶽の人物評~

平成28年11月30日発行

今回は、西郷隆盛が仕えた、薩摩藩の藩主島津斉彬・国父久光兄弟に対する福井藩主松平春嶽の人物評を取り上げます。



島津斉彬

松平春嶽は、明治維新後、著作活動に励み、その著書の一つである随筆『逸事史補』には、幕末から明治に活躍した人々の人物評が記されています。様々な人物が登場しますが、その中で春嶽が最も尊敬した人物が、盟友島津斉彬でした。



島津久光

斉彬は、老中阿部正弘などと結び幕政改革・公武合体を図り、將軍継嗣問題では春嶽とともに一橋慶喜擁立に奔走した幕末の名君の一人です。『逸事史補』では、「明治維新の成功はすべて斉彬の功である。」、「肝が大きく、才智より道徳を重んじた。」、「穏やかで慎重み深く、学問に通じていた。」、「尊皇家でありかつ佐幕家」、「西郷隆盛、大久保利通は、斉彬が丹精して育てた人物」、「節約家だが、必要に応じ、大金を惜しげなく使った。吝嗇家（ケチ）ではない。」などと評し、その見識や人材登用に對する尊敬の念と信頼の厚さが感じられます。

一方、斉彬の死後、若き藩主の後ろ盾として藩政をリードした、弟、久光については、「悪口を言う人も多いが、斉彬と同様に才智より道徳を重んじた。」、「尊皇の志は斉彬を超えている。」としながら、それ以上の評価や逸話を記載することは行いませんでした。「かえって悪くとられるといけないのでわざと記さない。」と理由を述べていますが、斉彬と異なり、心から尊敬できる人物とは描かれていません。

そのことを示す逸話が『逸事史補』に残っています。久光の密書に関する内容です。当時、その密書は、幕府隠密によって探し出され、將軍徳川家茂、慶喜、老中、春嶽など限られた人物のみ目にしたものでした。久光の密書には、「もはや徳川家だけではこれまでの治政を保つことが困難」、「公家政治では混乱するから、五大老（徳川慶喜、山内容堂、松平容保、島津久光、毛利敬親）を立てるしかない。」、「五大老の中で人望のある者が將軍になることもあるだろう。」と書かれていました。春嶽は、「島津の存念は終始変わらず」として、常に国の実権を担おうとしていた久光の野心を見抜いていたと言われています。

斉彬、久光、二人に仕えた西郷。斉彬から厚い薫陶を受けていた一方で、久光については、その面前で「ジゴロ（田舎者）」と評するなど相当の確執がありました。春嶽の人物評と通じるところがあったのかも知れません。

<参考資料>逸事史補

~幕末ふくい歴史紀行~ [養浩館庭園]

・養浩館は、別名、御泉水屋敷といわれ、江戸時代に、福井藩主越前松平家の別邸だったところです。春嶽もしばしば訪ねたこの屋敷。その庭園は、回遊式林泉庭園をそなえ、江戸時代中期を代表する名園の一つとして知られています。

【住所】福井市宝永3丁目11-36（JR福井駅から徒歩15分）



養浩館庭園

★お知らせ 福井市立郷土歴史博物館で「日本美術を解剖！うつす・写す・映す」を開催！

・平成28年11月26日（土）～平成29年1月22日（日）に、1階の松平家資料展示室で開催

・松平春嶽やペリーの肖像画、源氏物語の写本、幕末の古写真など、江戸時代から明治時代にかけての“写された”美術作品のおもしろさを紹介しています。

【住所】福井市宝永3丁目12-1（TEL 0776-21-0489）JR福井駅から徒歩15分（養浩館庭園近く）